

# 令和6年産 麦作情報 第1号

宮城県亘理農業改良普及センター

令和5年10月18日発行

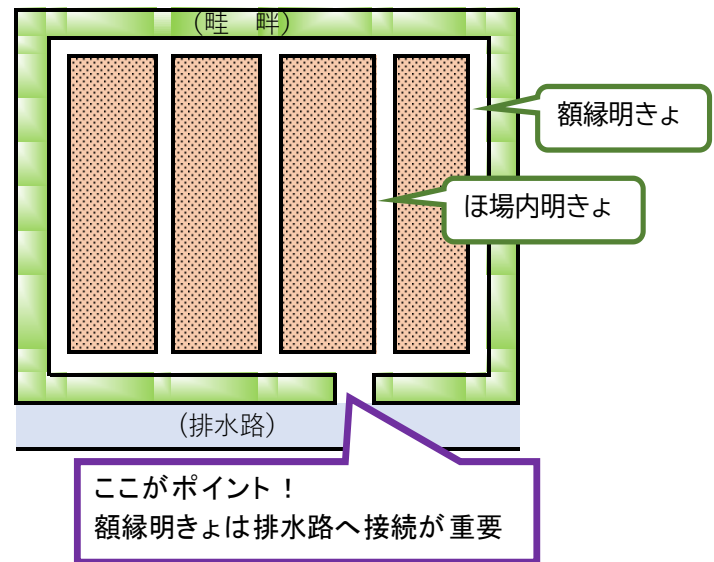
電話0223(34)1141 FAX0223(34)1143

ホームページ<https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

## 1. ほ場の準備

### (1) 排水対策

- 麦類は湿害に弱い作物です。  
「出芽・生育初期」、「節間伸長期～登熟期」は特に注意が必要です。
- 停滞水を速やかに除去するため、弾丸暗きよや明きよを設置しましょう。明きよは10～30m間隔、深さ20～30cmで設けます。
- 明きよは、必ず排水路に接続するようにしましょう。



### (2) 土壌pHと碎土率について

◆ 土壌pHの目標（大麦）：pH6.1～7.0

（小麦）：pH5.6～6.5

- 水田からの転換畑は、通常pH5.0～6.0程度の弱酸性です。特に、大麦の場合は、そのままだと根の伸長が阻害されて、生育不良となる場合があります。目標pHを参考に石灰資材で調整しましょう。
- ◆ 碎土率：直径2cm以下の土塊の割合 70%以上
- 碎土が不十分だと、過乾燥や播種深のバラつきにより、出芽不良・不揃いとなります。また、土壌処理除草剤の処理層がきれいに形成されません。

### (3) 基肥

◆ 越冬前に十分な生育量を確保するため、基肥を施用しましょう

成分量の目安：窒素8～10kg、リン酸8～10kg、カリ10kg（/10a）

- 稲わらをすき込む場合は、窒素で1～2割増にします。（稲わらを分解する微生物と麦が、窒素を奪い合うことで生じる「窒素飢餓」を抑制するため）

## 2. 播種

### (1) 播種時期

- ・ 播種が遅れるほど出芽に時間がかかり、年内の生育量が不足します。
- ・ 10月末までの播種が望ましいですが、大豆-麦体系の場合、大豆収穫後、11月上旬までの播種を心がけましょう。

### (2) 播種量

#### ◆ 大麦の場合の目安：8～10kg/10a（ドリル播き）

- ・ 播種が遅れる場合は、播種量を増やし、出芽本数（200～250本/m<sup>2</sup>）の確保に努めましょう。

### (3) 播種深

#### ◆ ドリル播き：播種深約3cm程度

散播（耕起作業を伴う全面全層播き）：攪拌深度5cm程度

- ・ 深すぎる：出芽不良・初期生育の遅れ・分けつ発生抑制の要因となります。
- ・ 浅すぎる：乾燥による出芽不良、除草剤や凍霜害・乾燥害の影響を受けやすくなります。

## 3. 麦踏み（踏圧）

#### ◆ 麦踏みは ＜越冬前に1回＋越冬後に1～2回＞実施しましょう。

- ・ 越冬前：ほ場に凍結層が出来る前
- ・ 越冬後：生育が再開する起生期（融雪期：平均気温4℃）以降

表 踏圧の効果

麦踏圧	土壌鎮圧
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 耐寒性・耐干性の強化</li><li>・ 徒長・早立ちの防止</li><li>・ 分けつの増加</li><li>・ 分けつ相互の生育調整</li><li>・ 穂揃いの均一化</li><li>・ 深根化（→鳥害の軽減）</li><li>・ 稈の強剛化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 霜柱による被害軽減</li><li>・ 風による土壌移動の軽減・防止</li><li>・ 干害による被害軽減</li><li>・ 鳥害の軽減</li></ul>